

北九州高専基金ご支援のお願い

北九州高専の教育研究活動等に対し、日ごろより温かいご理解とご支援を賜り、深く感謝申し上げます。

本校は、日本の近代産業発祥の地として、経済成長をけん引してきた「北九州工業地帯」を有する北九州市に、1965年に設置されました。“明るい未来を創造する開拓型エンジニアの育成”を理念とし、創設以来、約8,000名を超える卒業生を社会に送り出してきました。卒業生の多くが、わが国及び世界の産業の発展に貢献し、幅広く活躍しております。

2015年には、従来の本科5学科制(機械工学科、電気電子工学科、電子制御工学科、制御情報工学科、物質化学工学科)から、産業の複合・融合に対応し、工学的な基礎力を高めることを目的に、生産デザイン工学科の1学科制へ改組を行いました。これにより、更に社会のニーズに応えられる“人財”を育成する教育機関へ、リニューアルしました。

皆様から、創立50周年記念事業の際にご支援いただきました浄財は、学生の国際対応力を高め、全世界的に活躍できる技術者を育成すること、またその一歩としてのグローバルマインドの醸成のために活用してまいりました。この支援により、毎年30名以上の学生が、東南アジア諸国を中心に海外での国際会議、交流事業やインターンシップに参加してきました。また、海外での活動を経験した学生が中心となって、帰国後、学内での報告会やInternational caféが開催されています。これらの活動は学生・教職員のグローバルマインドの醸成につながり、着実に学校全体のグローバル化が進んでいます。その結果として、2019年度の国立高専機構の補助金「グローバルエンジニア育成事業」の採択にもつながりました。

このように、創立50周年記念事業は本校のグローバル化推進に大きな成果をもたらしています。この支援を継承していくとともに、今後の高度化人財育成を行っていくためにも、2021年3月から「北九州工業高等専門学校基金」を立ち上げました。

北九州市にある高専として、また、With/After コロナの社会の課題を解決し、Society5.0やSDGs(Sustainable Development Goals)を担う“人財”を育成する教育機関として、本校は更なる高度化が求められています。これまで以上に、地域社会に貢献できる学び続ける人財を育成するために、「北九州工業高等専門学校基金」にご理解とご賛同いただき、ご支援のほどよろしくお願い申し上げます。



校長 片山 佳樹